

SCOUTING 茨城

日本ボーイスカウト茨城県連盟は、社会の変化に即応して、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題をより良く解決する資質や能力を高める活動を行っています。また、その中で、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を養い、そして、たくましく生きていくための健康や体力を獲得することを重点的に取り組んでいます。



2026年8月4日～8月10日にわたって開催された第19回日本スカウトジャンボリーからの一コマ。
8月7日夕刻にジャンボリー会場となった広島県神石高原町・神石高原ティアガルテンのアリーナには全国及び海外から集った約6000人のスカウト及び指導者達が一堂に会し「ジャンボリー大集会」が開催されました。

活動的で自立した青少年を育てる ★ ボーイスカウト!

理事長挨拶

つなげ、 友だちの輪！



日本ボーイスカウト茨城県連盟
理事長 宮田 俊晴

日頃よりボーイスカウト運動に対しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。行政関係者の皆様をはじめ、地域の皆様、関係団体の皆様、そして多くの支援者の皆様のお力添えにより、茨城県内のボーイスカウト活動は着実に歩みを進めております。

本年度は、8月4日から10日まで広島県神石高原町で開催された第19回日本スカウトジャンボリーに、茨城県連盟からスカウトと指導者合わせて152名を派遣いたしました。日本スカウトジャンボリーは全国からスカウトが集う国内最大規模の野営大会ですが、前

回大会は新型コロナウイルス感染症の影響により分散開催となり、高萩会場での開催が中止となったため、県連盟としては8年ぶりの派遣となりました。大会テーマである「挑戦 ～神石から未来への一歩～」のもと、参加したスカウトたちは様々な場内プログラムに取り組み、仲間と力を合わせながら多くの経験を積みました。また、しまなみ海道をはじめとする場外プログラムでは、地域の自然や文化に触れ、新たな発見と学びを得ることができました。さらに、全国各地の仲間との交流を深めるゲームや交歓営火などを通じて友情の輪を広げ、それぞれがか

けがえのない思い出を胸に刻みました。

慣れない環境の中で自ら考え、行動し、仲間と協力して課題を乗り越えた経験は、スカウトたちにとって大きな財産となったことでしょう。大会を終えて茨城に戻ってきたスカウトたちは、一回りも二回りも成長した姿を見せてくれています。この貴重な経験を今後の活動や地域社会での実践につなげ、次代を担う人材としてさらに成長してくれることを期待しています。昨年8月の茨城県カンボリーをホップ、そして今年の日本スカウトジャンボリーをステップとして、未来に向けてジャンプしてください。

また、本年度は県北地域において新たな仲間が加わりました。高萩第2団が誕生し、6月21日に発団式が執り行われました。新たな団

の発足は、ボーイスカウト運動の理念や教育活動が地域に広がり、多くの子どもたちに成長の機会を提供できることを意味します。関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表するとともに、高萩第2団の今後の発展を心より願っております。

ボーイスカウト運動は、自然の中での体験活動や奉仕活動を通じて、自ら考え行動できる青少年の育成を目指しています。変化の激しい時代だからこそ、仲間との協力や社会への貢献、そして挑戦する心を育む本運動の役割はますます重要になっています。今後も茨城県連盟は、地域に根ざした活動を推進し、未来を担う青少年の健全育成に努めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

01

第19回日本スカウトジャンボリー

8月4日(火)から10日(月)、6泊7日の日程で、広島県神石高原町の「神石高原ティアガルテン・カントリーパーク 仙養」で第19回日本スカウトジャンボリーが開催されました。茨城県連盟からはスカウトと指導者合わせて152名が参加しました。スカウト101名、指導者17名で派遣隊を3隊編成し、派遣団本部要員6名、大会奉仕スタッフ28名(成人指導者とローバースカウト)も会場入りしました。

日本スカウトジャンボリーは4年に一度全国からスカウトが集う国内最大規模の野営大会です。新型コロナウイルス感染症が拡大した2022年の大会は分散開催かつ中止の会場が相次いだため、全国規模で一堂に会する大会は8年ぶりとなりました。

8月4日大型バスに乗ったスカウト達と野営資器材を積んだトラックが全国から会場に集結、その日のうちに約8000人のジャンボリー村が出現、静かな高原の地は若者達の活気に包まれました。初日の夜は開会式、8月7日夜はジャンボリー大集会が行われ、アリーナは熱気に包まれました。2日目から日中は様々な場内・場外プログラムに取り組み、夕食後は派遣隊同士で交流プログラムを展開し、歌声や笑い声がそここで響いていました。サイクリング・ハイキング・登山、日本一プログラムへの挑戦等の野外活動のみならず、坐禅・写経体験や、古墳群と妖怪の伝承に触れたり、カブトガニとバイオ発電を学んだり、植林で汗を流したりと地域の自然や文化に触れる機会も多く設けられました。また、広島のピースプログラムに参加、熊本地震に想いを寄せ、海外派遣隊のスカウト達との国際交流も活発に行われていました。一週間の様々な活動を終え、8月9日には閉会式、翌10日は早朝から撤営、感謝を残しつつスカウト達は大型バスで帰路につき、神石高原は元の静けさに戻りました。

このページには淡緑に紫の縁取りの19NSJ茨城派遣隊ネッカチーフを着けたスカウト達の写真を纏めました。

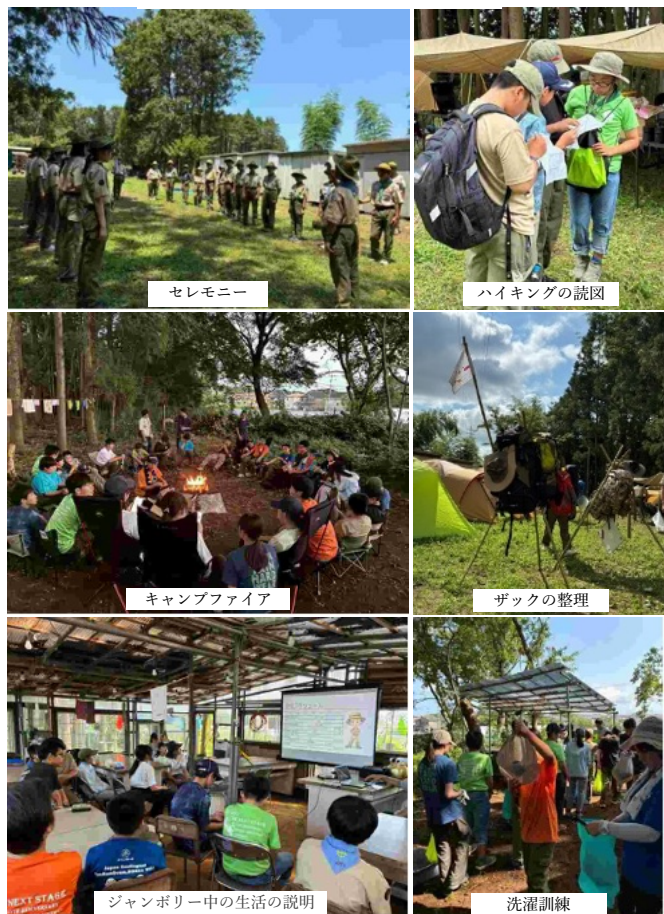
詳細はボーイスカウト日本連盟のホームページ内にあるジャンボリー特設サイトをご覧ください。

リンクURL→ <https://19nsj.scout.or.jp/>

当該ページ右上タブにある「ジャンボリー新聞」に大会期間中のスカウト達の活動の様子が掲載されています。



茨城第1隊の事前訓練の様子



茨城第2隊の事前訓練の様子



日本ジャンボリー派遣隊の準備は何ヶ月も前から始まりました。ここでは、茨城県連盟の派遣隊である茨城第1隊と第2隊の事前訓練の様子をご紹介します。

茨城第1隊は日本ジャンボリーに向けて5月3～5日、6月20～21日、7月19～21日の計3回の事前訓練キャンプを実施しました。第1回と第2回は班や隊の結束を高めることを目的として、日本一プログラムや国旗儀礼を中心に班別で訓練を実施し、第3回では炎天下での活動に慣れるとともに、スカウトとしての技能向上を目指して、読図や計測を課題としたハイキングを実施しました。

また、ジャンボリーでの生活を想定した野外工作、洗濯、身体清拭の訓練を行うとともに、過去のジャンボリーの写真の閲覧やキャンプファイヤーを通じて、気分の高揚を図っています。これらの訓練を通じて、長丁場の日本ジャンボリーに耐えうるだけのチームワークと技能を向上させることが出来たと考えています。

茨城第2隊は、5月3～5日と7月5日に事前訓練キャンプを実施しました。

5月3～5日の事前訓練ではまず、訓練キャンプの目的を説明し、次いでタープ、テント及び炊事場の設営を時間を測りながら行いました。ジャンボリー初日の到着時刻が夕刻であり、効率良く設営を進める為です。会場での野営サイトの大きさを想定した配置も実測しながら確認しました。また、保護者への説明会も併せて行なっています。

2日目は指示書を用いたハイキング。チェックポイントでの課題もこなしています。ベンチャー隊はジャンボリーにおける役務分担も話し合っていました。2日目夜はキャンプファイヤー。設定したテーマに沿って各班が楽しいスタンツを披露しました。

最終日は撤営の意味を再確認します。撤営も時間との戦いであり、目標時間を明確にしながら訓練しました。

7月5日は主に一週間にわたる野営生活に必要な個人装備のリスト作りを各班毎に行いました。また、プログラムへの準備とウェルカムゲートや物干し作りの練習を行いました。

こうした事前訓練を重ねることと、結隊式や派遣隊長や派遣隊指導者達とスカウトがやり取りを進めることで大会本番に向けたチームワークの醸成に努めました。





02

第1地区 高萩第2団発団

6月21日(日)に高萩第2団の発団式が高萩市総合福祉センターにて開催されました。県内では久々の新しい団の発足です。

大和の森高萩スカウトフィールドの運営を開始したのは平成29年8月、令和3年11月には高萩市とボーイスカウト日本連盟の間で「災害時における緊急避難者の受け入れ等に関する協定」が締結されました。また、茨城県連盟でも高萩市主催の高萩スカウトフィールド活用事業の一つである親子キャンプに毎年奉仕協力を重ねてきました。これらを通じて、高萩市の行政を筆頭にボーイスカウト活動再開の機運が高まり、地元の皆様の支援も得ながら、発団の準備を進めて、ここによりやく新たな団の発足を迎える事ができました。

ボーイスカウト運動の理念や教育活動が地域に広がり、多くの子ども達に成長の機会を提供できる事を嬉しく思います。関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表すると共に、高萩第2団の今後の発展を心より願っています。

増田秀夫団委員長からのメッセージを紹介致します。

『この度、ボーイスカウト高萩第2団はおかげさまで、地域の皆さまに見守られながら、正式に活動を開始する事ができました。』

高萩市における青少年育成の一端を担う団として、今後はより一層地域社会に貢献できる活動を推進してまいりる所存です。引き続き、ご指導・ご支援を賜りますよう、団を代表してお願い申し上げます。』

03

第1地区 富士スカウト

日立市長表敬訪問

9月4日(金)に2025年度富士スカウト章認証スカウト2名(日立第8団 飯村柚月、野口真由奈)が日立市長に認証を受けた報告をしました。

富士スカウト章課目の「ちかい」と「おきて」についての作文を読み、今後の実践を再確認するとともに市長に決意を表明しました。

市長からは「たのもしき若者だ!」とのコメントがあり、なお一層「より良き社会人」として成長するための励みをいただいております。

市長に富士スカウト章認証に際し授与された賞状やバックル等の記念品を披露しながら、終始なごやかな雰囲気の中、会談することができました。

次に続くスカウトの目標となってもらえるよう今後の活躍に期待しております。

04

第4地区 つくば3団なつのあそび

つくば第3団ビーバー隊の夏の恒例プログラム『なつのあそび』をレポートします。

毎年7月後半のプログラムは、「夏にしたいこと...全部やっちゃえ！」ということで、今年もてんこ盛りでワクワク楽しいプログラムを展開しました。

筑波ふれあいの里に元気に集合！待ちきれないスカウトのみんなとそわそわしながら開会セレモニー。セレモニーも終え「自分の準備は自分でしよう」という隊長の指令の下、手作り水中虫めがねと網を両手に抱え、ウォーターシューズに履き替えていざ、沢へ！筑波ふれあいの里には安全で楽しく遊べる沢があります。

やりたいコトその①『沢遊び！』

沢ではみんなびちょびちょになりながら、必死のパッチで沢カニ探索！時間も忘れ一心不乱にとにかくびちょびちょ。つくば3団ビーバー隊史上最高の31匹の沢カニをゲットしました。全員の誇らしげなドヤ顔、サイコーでした！

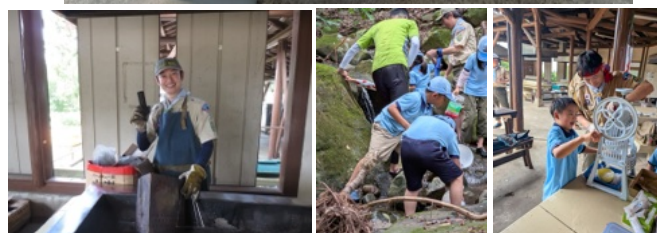
その裏では、BBQ場でつくば3団ビーバー隊が誇るBBQマスターの副長を筆頭にパパさんママさんで着々とBBQパーティの準備が進んでいました。スカウトたちは名残惜しい沢を後にしていざBBQ場へ帰還。

やりたいコトその②、『BBQパーティ！』。足を洗ったり片づけたスカウトからプルコギドックとフランクフルトをGET！いつものようにみんなで「いただきます！」みんなで食べるBBQはサイコー！

「腹が減っては戦はできぬ。」と言わんばかり、お腹が満たされてくるにしたがって、スカウト諸君は決戦に向けてにわかにそわそわそわ。なにやら大きなポリバケツに水がいっぱいに溜められて、、

そう！やりたいコトその③『水鉄砲大決戦！』みんなそれぞれ強力な水鉄砲を持参。なかには電動式自動連射の水鉄砲をもってきたツワモノも。スカウトVSリーダーの一大決戦！リーダーは金魚すくいのポイを頭につけて、1分間でリーダー全員のポイをスカウトのみんなが打ち破ればスカウトの勝利！よいスタート！沢では見守っていたリーダー達が今度は、スカウトたちの攻撃に耐えられず、あえなくびちょびちょ！毎年逃げるだけのリーダーでしたが、悔しいのでひそかに隊長は水鉄砲を持参して、逃げ回りながらも反撃開始！最後はみんなびちょびちょ！今年は1勝1敗の引き分けでした。そして、スカウトとリーダーが世紀の大決戦をしている傍らで、魅惑のマシーンの準備が着々と進んでいました。

やりたいコトその④『かき氷で頭イターイ！』大決戦のあとはノーサイド！みんなで仲良くかき氷を食べました。“魅惑のマシーン”カキ氷機は手で回すなつかし



で、素敵に氷が削れました！スカウトもかき氷作りに挑戦！シロップもかけまくってみんなベロがカラフルになりました！

というわけでみんなで片づけして閉会セレモニー！今年も楽しかったー！

つくば3団ビーバー隊の笹本が「なつのあそび」をお送りしました！



SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城 2026年 第2号 通算57号 令和 8年 9月発行
発行 日本ボーイスカウト茨城県連盟
〒 310-0034 水戸市緑町 1-1-18 茨城県立青少年会館 3F

※SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。

※SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.scout-ib.net/>

※SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。
著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。